

福 山 地 区

国労岡山地本第
三支部福山地区
分会機 関 紙
発行者仁科達也
編集者佐藤生
2022年11月8日
NO.12

これ以上原発を運転してはならない

11月5日、尾道市内で、小出裕章さんに聴く会と尾道新聞

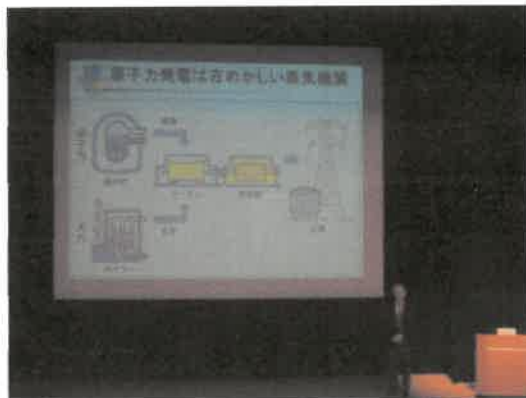
社、広島県保険医協会は、小出裕章氏を招き講演会を開催した。小出裕章氏から次の様な講演があった。①広島に投下された原爆は、僅か800gのウランを核分裂させただけで、広大な土地や建物、工場などを焼き尽くした。100万KWの原発1基を一年稼働させるためには、1tのウランが必要で、死の灰も1t放出される。ウランは石油のように大量にあるわけではなくいつかは枯渇する。②

福島原発事故で放出された放射能は、広島原爆の168発分

で、東北、関東地方の広範囲を汚染した。福島市中通りの放射線量は、3万〜6万ベクレルで放射線管理区域(1mあたり4万ベクレルを超える区域で、人が立ち入ってはならない区域)を越えているのにもかかわらず、多くの住民が暮らしている。③政府は、2023年にトリチウム(トリチウム水の化学挙動は普通の水と同じで放射能を除去できない)を含む汚染水を海に流すと言っているが、完

璧にできたとしても2046年までかかる。今、タンクにないトリチウムもいずれば海に流すことになるが、すべてが終わるまでに50年以上かかるといわれている。放射能を除

去できない汚染水を海に流してはならない。福島第一、第二原発周辺には広大な敷地が残っておりそこに汚染水を貯蔵するタンクを造らなければならない。④福島原発事故の処理に毎日3000〜4000人が働いているが、溶け落ちた燃料がどこにあるかわからず、ひたすら水を注入し冷やしている。汚染の主要成分はセシウム137で、その半減期は30年で100年経っても10分の1にしかならない



い。原子力緊急事態宣言は今も継続中で、100年経っても解除できない。放射能を消す力は、人間にも自然にもない。政府は、原発再稼働や増設、運転期間の延長を行うおうとしているが、人間は、放射能を制御できず、これ以上死の灰を生み出す原発を運転してはならない。との講演がありました。